

ホール・オルガニスト

梅干野安未の

オルガン通信 VOL.44



Les Amis de l'Orgue de Tokorozawa MUSE

すっかり秋らしい季節となりましたが、みなさまお元気でしょうか？私はミュージズで迎える初めての秋なので、航空公園の木々がどのように色づくのか、とても楽しみです。芸術の秋、ミュージズでの美しい音楽やイベントと共に、心豊かにお過ごし下さい♪

🍏 フランスの巨匠ブヴァール氏がミュージズにやってくる 🍏

今回は、連載パリ・オルガン街歩きをお休みし、11月3日(月・祝)に大ホールで行われるオススメ公演《ミシェル・ブヴァール / オール・バッハ・リサイタル》のご紹介です。



現在、パリ国立音楽院の伝統あるオルガン科の教授を務められ、私自身もパリで4年間師事した恩師です。この方の元で勉強をしたくてフランス留学を決めたのでした。生徒思いで、周りをパッと明るくするようなお人柄、演奏も非常に情熱的であたたかく、歌心溢れる演奏家です。

同時に、ヴェルサイユ宮殿内シャペルのオルガニスト、そして南仏にほど近い赤レンガ造りの「赤い街」トゥールーズの地方音楽院教授、サン・セルナン教会のオルガニストを

務めるなど、まさにフランスオルガン界の重鎮とも言えるブヴァール氏をミュージズにお迎えします！

🍏 バッハによる4つのオルガン曲集を聴く！ 🍏

今回のオール・バッハ・リサイタルでは、かの有名な『トッカータとフーガニ短調』はもちろん、最も重要な4つの曲集の中から選りすぐり名作の数々が演奏されます。オルガンに馴染みの無い方からバッハ大好きな方まで、それぞれの曲集の面白さを味わって頂けるプログラムとなっています！

ブヴァール氏の熱い想いととも、バッハの真の魅力に迫る公演。

11月3日文化の日 15時、大ホールでお待ちしています！

♪ バッハの4つのオルガン曲集の特徴とは？

■ **オルガン小曲集** → 音楽史上最も重要な曲集の一つ。

コラールを定旋律に用いた45の短い前奏曲がアドヴェントから教会暦順に並べられている。教育目的としても名高く、バッハ自身「初歩のオルガニストがコラールを様々な仕方で展開するための手引き」と記している。右の譜例はバッハの自筆譜「イエス・キリスト、我汝を呼ぶ」BWV639。



■ **シュープラー・コラール集** → 晩年に出版された6

曲からなる様々な技法によるコラール集で、出版者のJ. G. シュープラーにちなんでこの通称で呼ばれる。

6曲全て既作のカンタータから、バッハの手でオルガン用に編曲されたもの。

■ **ライプツィヒ・コラール集** → バッハが晩年にまとめた最大のコラール集。17曲から成り、若きバッハがヴァイマル時代に作曲したものを、晩年のライプツィヒ時代に改訂・補筆した。前述「オルガン小曲集」よりも各曲の規模が大きく、其々の作曲書法を拡大展開させたものといえる。

■ **クラヴィア練習曲集第3巻** → 第1巻「6つのパルティータ」、第2巻「イタリア協奏曲・フランス風序曲」に続く鍵盤楽器（クラヴィア）のための練習曲集の第3巻。冒頭と最後に大規模な前奏曲とフーガを挟み、21のコラールによってルター派の教理を音楽で伝えるかのような構成から、「ドイツ・オルガン・ミサ」と呼ばれる。

🍏 夏のヨーロッパ・オルガン旅行記 🍏



前回のオルガン通信でもお伝えしましたが、8月にヨーロッパへ行ってきました！2013年にフランスから日本に帰国して以来、一年ぶりとなるワクワクの渡欧。今回はスウェーデン、オランダ、ベルギー、ドイツ、フランスの順に、大小合わせて20を超えるオルガンを廻りました！

最終日にはパリ6区のサン・シュルピス教会で（写真右上）コンサートを行うことが出来、世界屈指の歴史的オルガンの元で過ごした時間はまるで夢のようでした。著名なオルガニストが歴代に名を連ね、演奏台への道程にも伝統の重みを感じます。18世紀の良質なオルガンの要素を活かしつつ、19世紀最大のオルガン製作者のカヴァイエ・コルによって完成したオルガンで（写真左上）、今でもその当時の演奏台（写真下）を使用している数少ない楽器です。手で演奏する鍵盤が5段とペダルがあり、鍵盤が遠いので5段目を演奏する時などは、バランスをとるのもひと苦労でした。。



写真は、前日リハーサルの時、世界的にも有名な現オルガニストのダニエル・ロート氏との一枚。

気品ある老紳士のように繊細で、それでいて力強く高らかに歌う、忘れられないオルガンとの出会いでした。